

慎重スタンス継続 戻りは売りで対処

端的に趣旨を述べると、レポートの表題の通りである。この局面は引き続き慎重なスタンスで臨み、相場の戻りは売りで対処することを推奨する。昨日の東京株式市場で日経平均は3日続伸し、底堅さが見られるようになってきた。実質年度替わりから1,000円も下げればさすがに調整一巡感が出て不思議ではない。しかし、「[今週のマーケット展望](#)」で述べた通り、

- ① 北朝鮮を巡る緊張が緩和しておらず、② 米国の経済指標に弱さが散見され、③ 欧州の政治リスクが再び懸念される。

「こうした状態では押し目買いも入りにくい」と僕は書いたが、昨日の東京市場では公的年金と見られるインデックス買いが入ったとの観測がある。東証1部の売買代金は概算で2兆3172億円と、3日ぶりに活況の目安とされる2兆円を上回ったが、それでもわずか13円高である。日経平均は3日続伸とは言え、非常に脆弱性を孕んでいるように感じる。

「[今週のマーケット展望](#)」では、「ドル円はこの先、1ドル100円まで明確な節目はなく、リスク回避の円高が進む可能性がある。日経平均も18,000円の大台割れが視野に入る」とも書いた。その見方は変わっていない。

フランス大統領選という波乱要素に加えて、4月28日に米国の暫定予算の期限が切れる。オバマケア代替法案を通せなかったトランプ政権の議会掌握力からして、予算をまとめきれないリスクが高い。同日までに本予算が成立しなかったり、暫定予算の延長が認められなかったりした場合、政府機関がシャットダウン(閉鎖)される。市場はこのリスクをまだじゅうぶんに織り込んでいるように思えない。

ゴールデンウィークの最中、5月2-3日にはFOMCがある。政策変更はないが、声明で6月利上げのニュアンスを探ることになる。ここも出てきた弱い指標がFOMCメンバーにどう影響しているかが注目だ。小売売上高やCPIの弱さについては、[こちらのブログ](#)を参照してほしい。その後、発表されたエンパイア・ステート景気指数(ニューヨーク連銀製造業景気指数)の下振れもネガティブ・サプライズだった。

CME FED WATCH では6月の利上げ確率が50%を割れている。今後、6月利上げの確率が一段と低下すれば円高が進行するだろう。決算発表での業績予想も信憑性が薄らぎ、アップサイドのカタリストになりにくい。

戻りは売りで対処されたい。現金比率を高めておけば、買い場はまだいくらでもあると思う。

ご留意いただきたい事項

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先金融機関より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会